

巻頭挨拶 観光産業学科増設を記念して

商学会会長 石原定和
商学部長

平成11年（1999年）4月1日に商学部観光産業学科を増設いたしました。観光産業学科の順調なすべり出しに加え、商学科も刺激を受け活気づいております。振り返ってみるに、増設準備過程で非常に多くの機関・団体の各位に直接・間接のご援助を賜ったことが増設実現のための大きなバネになったと痛感いたしております。そこで増設記念行事を開催するに際して、広く各界の各位にご参集いただき、本学の感謝の意を表すべき企画を樹て、記念式典につづき JTB 社長の船山龍二氏に講演をお願いし今後の強固な友好関係を維持する姿勢を顕現化させるとともに、祝賀パーティーでも九州の財界、各種団体および主要企業の方々に直接御礼を申し上げようと試みました。

記念行事の第二弾として本学部機関誌たる「商経論叢」の観光産業学科増設記念号を発刊することにいたしました。

新学科のカリキュラムに関しては、既存の観光関係の諸学科に類を見ない斬新な体系・科目を新設すると同時に実学の効果を挙げるべく工夫をこらしております。これら教育面での企画の基礎になるのは当然のことながら教員の研究面での特段の研鑽であります。学部所属教員の日頃の研究成果をここに集約して（一部ではありますが）各界の関係者の御批判と御叱声を賜らんと切なる思いで記念号を編集いたしました。

記念事業の第三弾として、平成12年（2000年）12月に日本観光研究学会の全国大会の開催を予定いたしております。

ご承知のとおり、福岡はアジアの玄関口であり、21世紀の大観光時代に備えて観光事業および観光研究の両域にわたっての「センター」を早急に形成しなければなりません。大方の要請に応え本学部の観光産業学科は、種々の観光関連の組織、団体と協力して地域密着型の「一大センター」形成に前向きに取り組んでいくつもりであります。この重要な時期に観光研究学会を本学で開催できることは誠に幸運と言わざるを得ません。練りに練った構想を土台に研究・実践両域にわたる意義ある学会に仕立てあげるべく、商学部が中心となって他の全学部、法人サイド、事務局等の援助をバックに着実に準備を進めたいと考えております。

われわれは、現在の観光産業学科のシステムに満足しているわけではありません。勇敢に内容の改革に着手していかなければ現実世界の速い流れに対応しきれないと思っております。

今後は格段の努力を続けていくつもりであります。

平成11年11月30日